

静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会（第2回）議事次第

日時：令和元年10月9日（水）

15:00～16:30

場所：ホテルアソシア静岡

15階 ベラビスタ

○ 開 会

○ 議 題

- 1 （仮称）静岡社会健康医学大学院大学の設置認可申請について
- 2 申請後のスケジュールについて
- 3 公立大学法人の組織・運営について
- 4 病院や大学等との連携について
- 5 その他

○ 閉 会

<資 料>

議事次第

資料1	静岡社会健康医学大学院大学（仮称）検討委員会 委員名簿	1
資料2	設置認可申請の概要	2
資料3	需要調査の概要	13
資料4	開学までのスケジュール	15
資料5	公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学（仮称）運営組織図	16
資料6	他大学、病院、各種団体との連携のあり方	17

静岡社会健康医学大学院大学(仮称)検討委員会委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	所属・役職等	備考
ほんじよ たすく 本庶 佑	京都大学高等研究院副院長、特別教授	委員長
きとう ひろし 鬼頭 宏	静岡県立大学学長	(欠席)
さこ よしやす 佐古 伊康	しずおか健康長寿財団理事長	
たなか いっせい 田中 一成	静岡県立病院機構理事長	
とくなが こうじ 徳永 宏司	静岡県医師会副会長	
なかやま たけお 中山 健夫	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野教授	
まつだ ふみひこ 松田 文彦	京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター センター長・教授	
みやた ひろあき 宮田 裕章	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任教授 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 国際保健システム・イノベーション研究科研究科長	(欠席)
みやち よしき 宮地 良樹	静岡県立総合病院参与兼リハビリテーションセンター長 (京都大学名誉教授)	
もちづき りつこ 望月 律子	常葉大学健康科学部看護学科在宅看護学特任教授	
やまもと せいじ 山本 清二	浜松医科大学理事(教育・産学連携担当)・副学長	
やまもと としひろ 山本 敏博	静岡県社会福祉法人経営者協議会会長	

計 12 名

(仮称) 静岡社会健康医学大学院大学の 設置認可申請について

目次

1	大学院大学の概要	1
2	ディプロマ・ポリシー	2
3	カリキュラム・ポリシー	3
4	教育課程の概要	4
5	教員組織	6
6	アドミッション・ポリシー	6
7	入学者選抜の方法	7
8	学生納付金	8
9	施設整備	9
10	施設配置図	10

1 大学院大学の概要

区分		内容
名称	大学	静岡社会健康医学大学院大学 (Shizuoka Graduate University of Public Health)
	研究科	社会健康医学研究科 (Graduate School of Public Health)
	専攻	社会健康医学専攻 (School of Public Health)
運営主体		公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学
所在地		静岡市葵区北安東4丁目27番2号 (旧静岡県赤十字血液センター、環境衛生科学研究所)
目的		健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とした学術の理論及び応用を教授・研究し、研究課題の科学的な分析により、健康寿命延伸に貢献する人材を養成し、もって地域社会に貢献することを目的とする。
開学年月日		令和3年(2021年)4月
修業年限		2年(長期履修制度により最大4年)
取得学位		修士(社会健康医学)
定員		入学定員:10人 収容定員:20人
卒業単位		42単位

2 ディプロマ・ポリシー

(卒業認定・学位授与の方針)

- ①公衆衛生の5つのコア領域（疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学・ヘルスコミュニケーション学、健康管理・政策学）の基本的内容を理解していること。
- ②地域における研究課題を見つけ、その課題を解決するための研究計画を自ら立案し、実行できる能力を身に付けていること。
- ③研究成果を医療や介護等の現場に効果的に還元できる、ヘルスコミュニケーション能力を身に付けていること。
- ④社会健康医学の実践活動においてリーダーシップを発揮できる能力を身に付けていること。

※将来的には、ゲノムコホート研究に携わる研究者の養成など、より専門的かつ高度な社会健康医学分野の研究者・教育者の養成を目的として、博士課程の設置を検討する。

3 カリキュラム・ポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

- ①国際的に通用するM P Hと同等の基本的能力を養うため、国際的な公衆衛生学教育プログラムの認定機関である米国公衆衛生教育協会（C E P H）において基本科目とされる「疫学」、「医療統計学」、「環境健康科学」、「行動医科学・ヘルスコミュニケーション学」、「健康管理・政策学」の5つのコア領域を基盤として教育を行う。
- ②地域における健康や医療・介護の現状を適切に分析するとともに、仮説の立案、研究方法の構築など、研究の基本設計を構築し、実行する能力を身に付ける教育を行う。
- ③地域の医療や介護等の現場に研究成果を還元できるよう、健診・医療・介護データなど静岡県の地域資源を活用した教育研究を行う。
- ④研究成果を地域に効果的に還元するため、ヘルスコミュニケーション能力やリーダーシップを発揮できる能力の向上を図るための教育を行う。

4 教育課程の概要①

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
共通科目	社会健康医学概論	1前	2			○			
	公衆衛生危機管理論	1後		2		○			
	基礎医学講座	1前		1		○			
	高齢者ケア概論	1前	1			○			
	公的統計活用法	1後		1		○			
	文献検索法、文献評価法	1前	1				○		
	プレゼンテーション・ライティングスキル	1前	1			○			
	小計（7科目）	—	5	4	0		—		
公衆衛生学 科目	疫学領域	疫学概論	1前	1			○		
		疫学研究・臨床研究特論	1後		1			○	
		臨床研究概論	1前	1			○		
		疫学・ゲノム疫学特論	1後		1		○		
	小計（4科目）	—	2	2	0		—		
	医療統計学領域	医療統計学概論	1前	2			○		
		医療統計学特論	1後		2			○	
		臨床試験解析学	2前		1		○		
		観察研究解析学	2前		1		○		
	小計（4科目）	—	2	4	0		—		
	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	1前	2			○		
		環境健康科学・産業衛生学特論	1後		1			○	
		生活習慣病（生活習慣・遺伝子・環境）	1後		1		○		
		小計（3科目）	—	2	2	0		—	
	行動医学・ヘルスコミュニケーション学領域	健康情報学	1後		1		○		
		ヘルスコミュニケーション概論	1前	1			○		
		ヘルスコミュニケーション特論	2前		1			○	
		行動医学	1前	1			○		
		健康医療社会学	1後		2		○		
	小計（5科目）	—	2	4	0		—		
健康政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	1前	1			○			
	健康・医療ビッグデータ特論	1後		1			○		
	健康政策・医療経済学概論	1前	1			○			
	健康政策・医療経済学特論	2前		1		○			
	社会健康医学倫理概論	1前	1			○			
	社会健康医学倫理特論	2前		1			○		
小計（6科目）	—	3	3	0		—			

4 教育課程の概要②

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習
ゲノム医学 科目 領域	医科遺伝学概論	1前	1			○		
	医科遺伝学特論	1後		1		○		
	遺伝カウンセリング	1後		1		○		
	遺伝カウンセリング実習	2前		1				○
	ゲノム医学特論（疾患と遺伝子）	2前		1		○		
	小計（5科目）	—	1	4	0	—		
発展科目	フィールド実習	2前		1				○
	死生学	2前		1		○		
	社会健康医学における質的研究	1後		1		○		
	社会健康医学における混合研究	2前		1		○		
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	2前		1		○		
	医療・ケア組織論	2前		1		○		
	高齢者ケア特論	2前		1			○	
	高齢者運動・リハビリテーション論	2前		1		○		
	聴覚コミュニケーション学概論	1後			1	○		
	聴覚コミュニケーション学特論	1後			1	○		
	小児聴覚評価法	2前			1	○		
	脳の発達と聴覚	2前			1	○		
	小児難聴マネジメント	2前			1	○		
	老年オーディオロジー	2前			1	○		
小計（14科目）	—	0	8	6	—			
特別演習等 研究	修士論文	1後～2		8			○	
	課題研究	1後～2		4			○	
	小計（2科目）	—	0	12	0	—		
合計（50科目）		—	17	43	6	—		

5 教員組織（専任教員）

（1）職位別

区分	学長	教授	准教授	講師	助教	計
人数	1名	11名	6名	4名	1名	22名

（2）年齢別

区分	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	計
人数	3名	4名	10名	2名	3名	22名

※開学時年齢

6 アドミッション・ポリシー

（入学者受入れの方針）

- ①健康と医療、環境に対する高い関心とリサーチマインドを持っている者
- ②大学院修了後も、地域の医療・介護等の現場において、リーダーとして活躍したい、又は、健康寿命の延伸に資する研究を継続したいという意欲のある者

7 入学者選抜の方法

研究科	社会健康医学研究科	
専攻	社会健康医学専攻	
入学定員	10 人	
募集 人員	一般入試	6 人程度
	推薦入試	4 人程度

- ・ 一般入試：書類審査（小論文）、筆記試験（英語）、面接試験により、アドミッション・ポリシーに合致した人物を選抜する。
- ・ 推薦入試：所属する団体等（静岡県内の病院、医師会、市町、県内外の大学等）からの推薦があるものについては、書類審査（小論文）、面接審査による選抜を実施する。

8 学生納付金

(単位：円)

区分	県内	県外
入学金	141,000	366,600
授業料 (年額)	535,800	
初年度納付金	676,800	902,400

※金額は予定

9 施設整備

開学時（令和3年4月）

- ・ 先行改修する旧静岡県赤十字血液センターには、教育に必要な施設として、専任教員室、講義室、演習室、図書館、院生室等を整備し、1年次のカリキュラムに十分対応できる環境を整える。
- ・ 専任教員が使用する研究室等の機能は、研究施設が整っているリサーチサポートセンターを利用する。

最終形（令和4年3月）

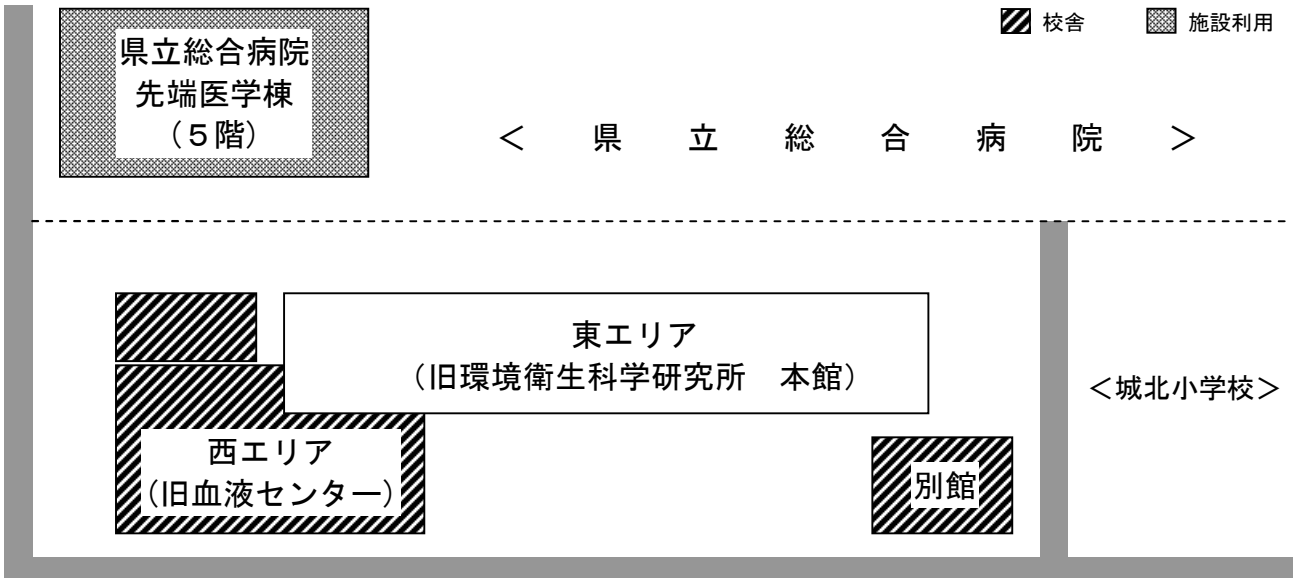
- ・ 旧環境衛生科学研究所を校舎として整備し、初年度に利用していたリサーチサポートセンターの研究室等の機能を移管する。
- ・ また、研究機能の移管に当たっては、研究の継続に支障が生じないように注意して行う。

施設整備スケジュール

区分		令和元年度	2年度	3年度	4年度
設計		→ 設計 →			
工事	旧血液センター		→ 改修工事 →	○開学	
	旧環境衛生科学研究所			→ 改修工事 →	○全館供用
リサーチサポートセンター				→ 利用 →	

10 施設配置図

開学時 令和3年4月



最終形 令和4年3月

